



最初に、耕作放棄地の分布状況と人口分布の状況を把握するため、農業集落ごとの耕作放棄地面積データと500mメッシュ人口を重ね合わせ表示する。

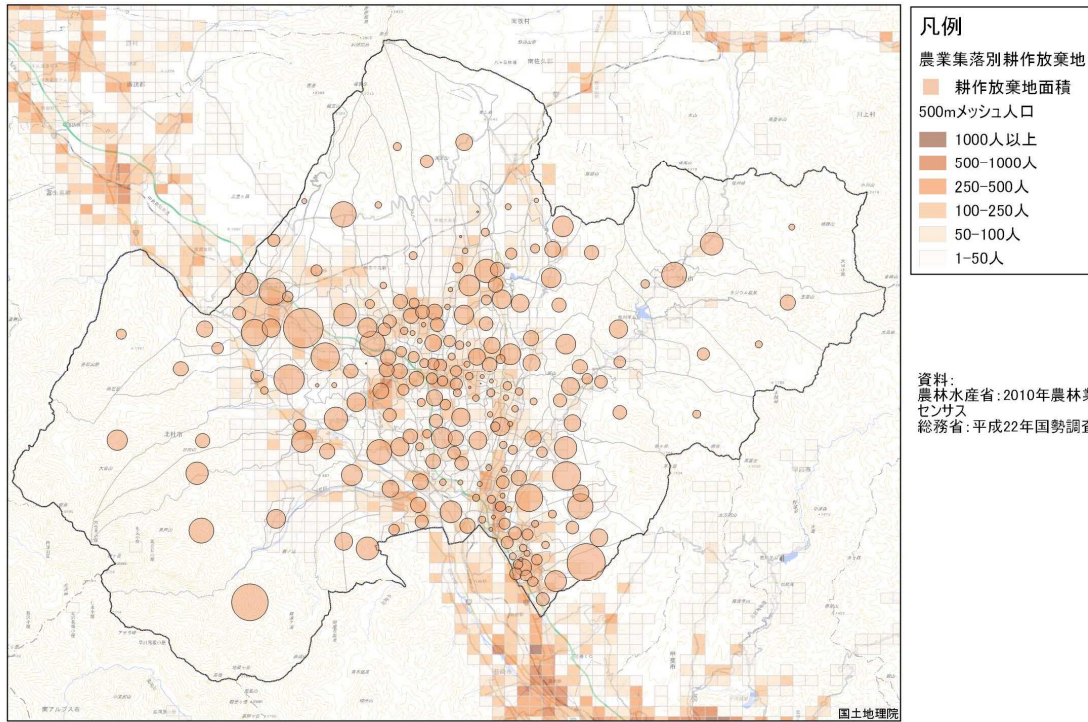


図2 農業集落別耕作放棄地と500mメッシュ別総人口(2010年)

さらに、耕作放棄地の利活用可能性を土地の傾斜度から把握するため、250mメッシュ平均傾斜度と農業集落別耕作放棄地を重ね合わせて表示する。

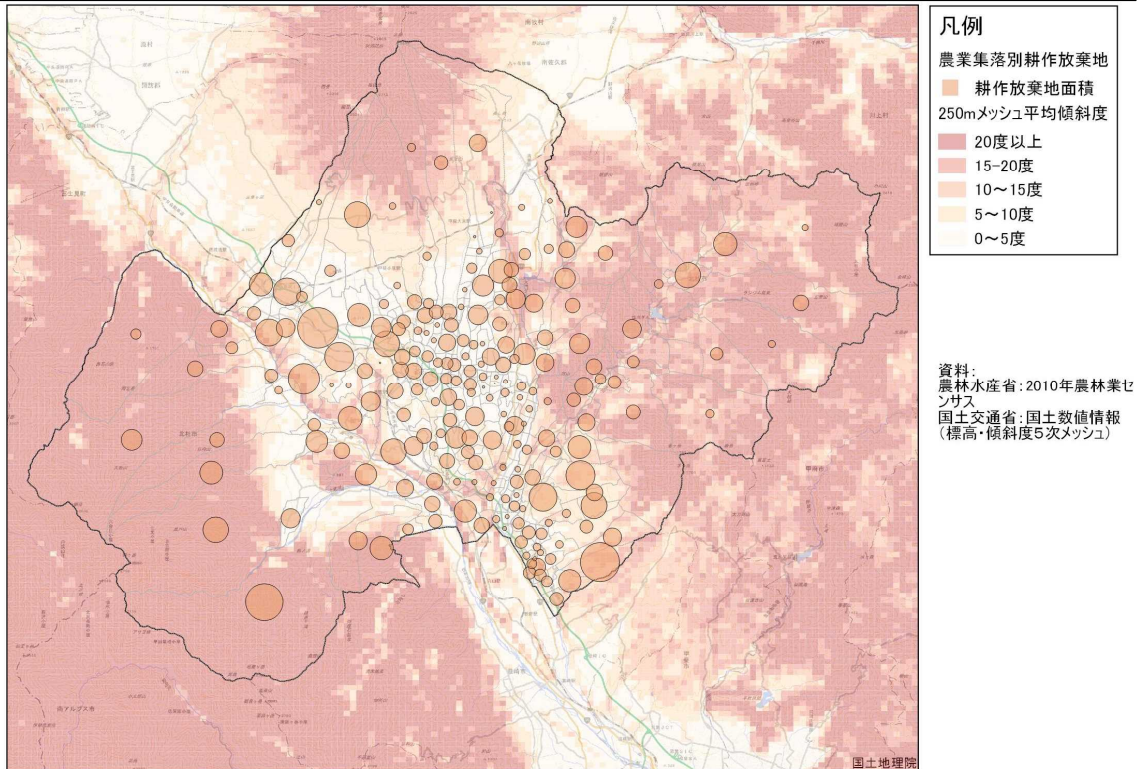


図3 農業集落別の耕作放棄地と250mメッシュ平均傾斜度



次に、耕作放棄地と農地田畑の関係を把握するため、土地利用データの田・畑を重ね合わせて表示する。

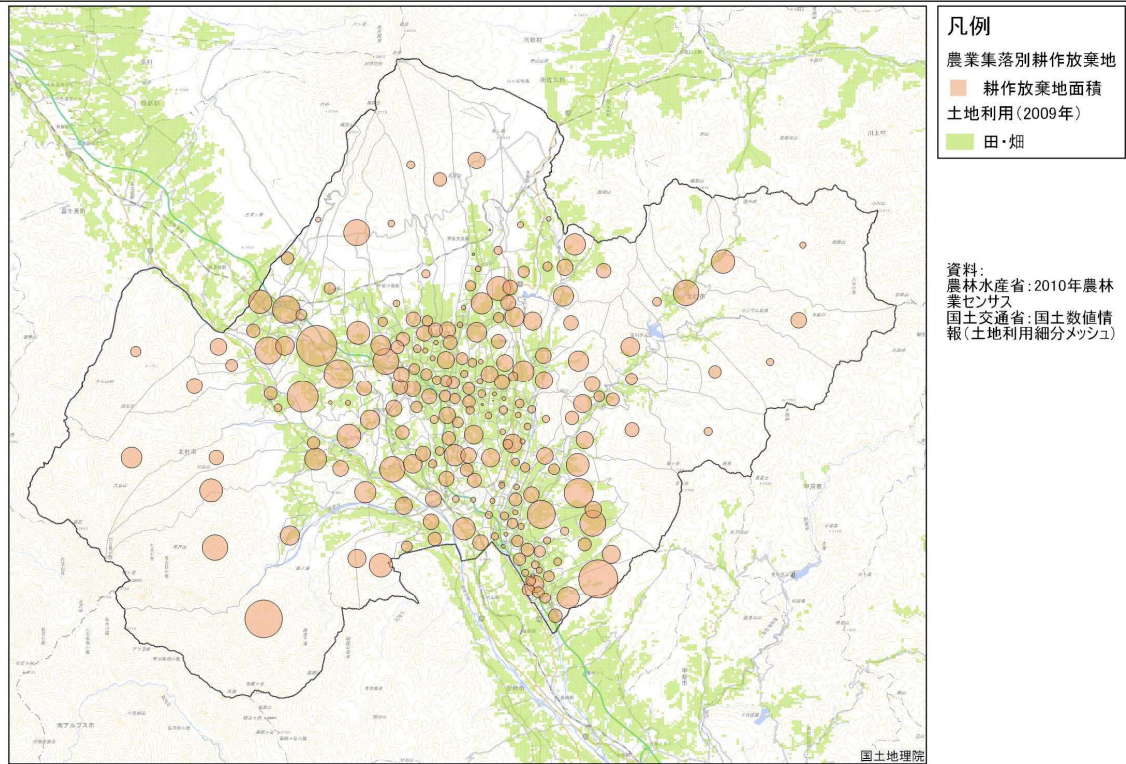


図4 耕作放棄地と土地利用細分メッシュ(田、畑)

今度は、将来の人口増減を把握するため、1kmメッシュ推計人口による2010年と2050年の人口比率を耕作放棄地とともに表示する。

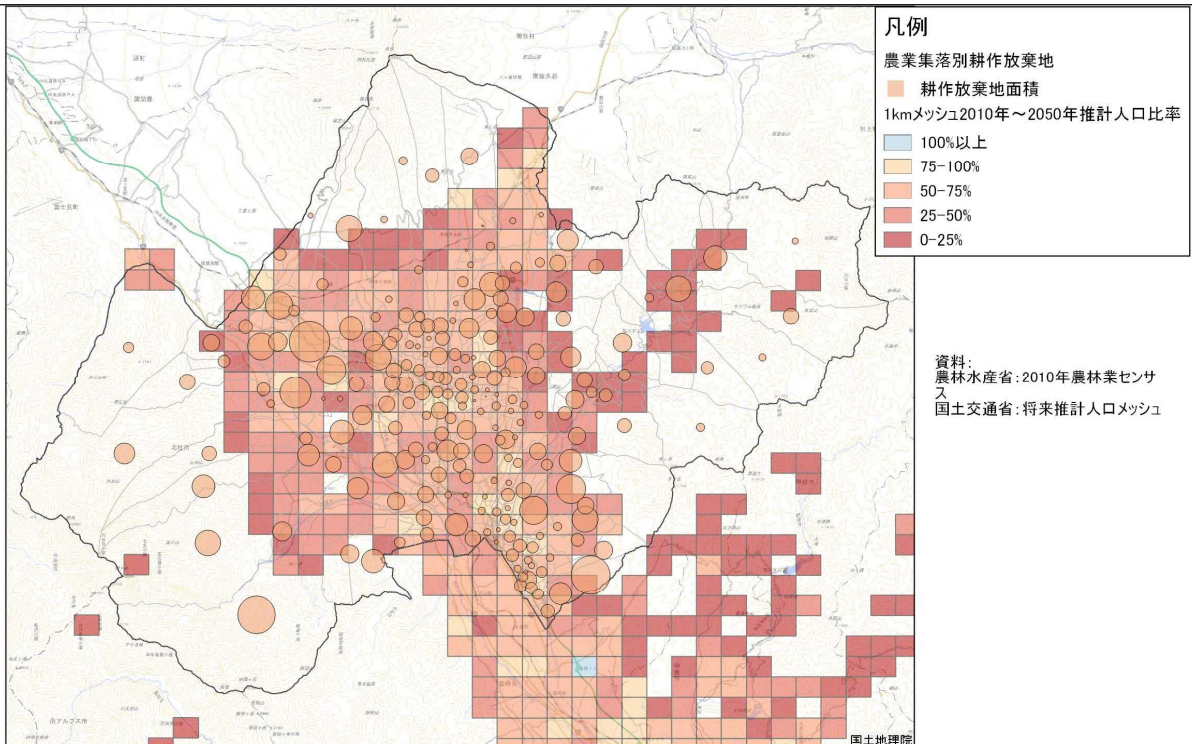


図5 耕作放棄地と人口増減率(2010年から2050年の増減割合)



最後に、耕作放棄地、田畑、傾斜度にバス路線を重ねて表示し、耕作放棄地の利活用の可能性を検討する。

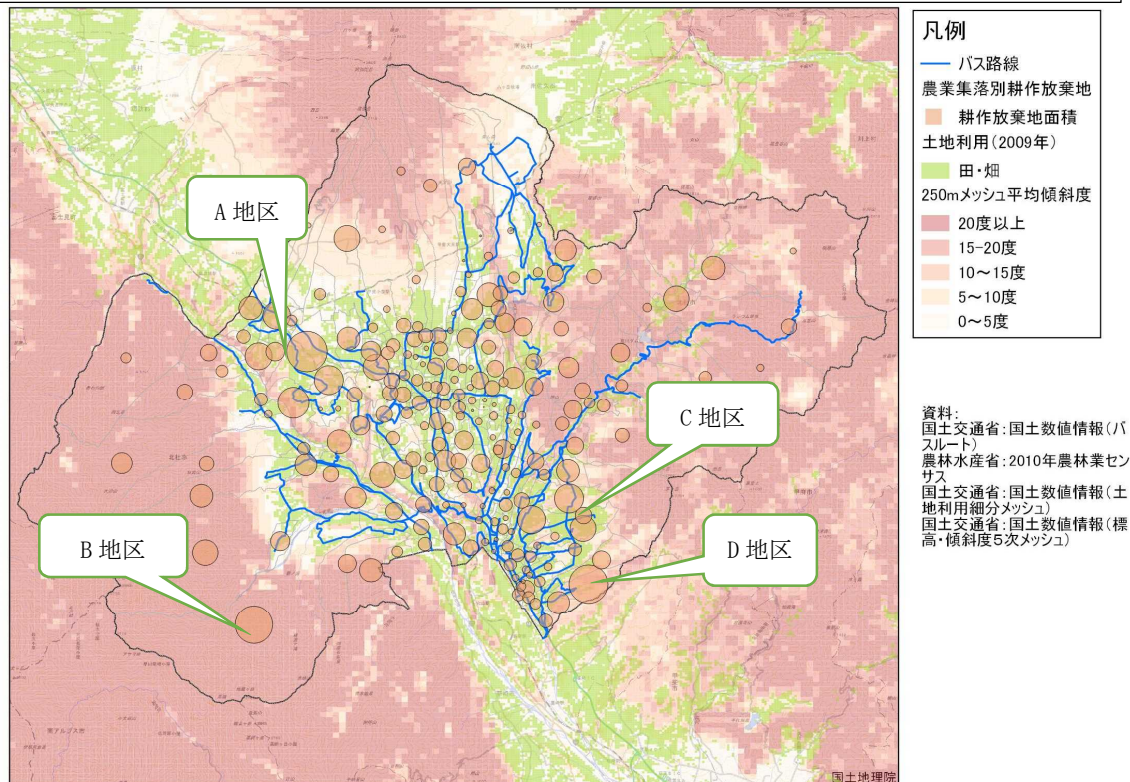


図6 耕作放棄地と傾斜、土地利用(田、畑)

### ・結果の解釈例

- ・北杜市の耕地は、八ヶ岳の山麓緩斜面と釜無川による谷底平野等に広がっており、その中で耕作放棄地の大きな地域としてA~D地区が挙げられる。(図6)
- ・地形が有利で利便性の高い地区として、A地区、C地区の一部が挙げられる。逆に地形的に不利な地区としてB地区、D地区が挙げられる。(図6)
- ・将来人口の減少率から見ると、C地区、D地区の減少が大きく、耕作放棄地拡大の恐れが大きい。(図5)
- ・バス路線は、各地域に通じており(B地区の耕作放棄地の印は山間部におかれているが、この農業集落の範囲は麓まで広がっており、実際の耕作放棄地は山裾にあると想定される)、便数がある程度あれば、一定の交通条件は整っていると考えられる。(図6)
- ・A地区は現状農地も存在すること、傾斜も緩やかであること、将来人口も大きな減少が見込まれていないこと、また、このマップには記載されていないが高速道路のICからも近いことなどから、都市との交流の種地として活用する可能性が高い地区である。(図6)
- ・C地区、D地区も高速道路ICに近く、都市との交流の種地の可能性があるが、D地区は傾斜度が大きく、地区内の農地も少ないため、林間レジャー等の利用を模索する必要があると見られる。C地区は周辺に農地があることから、農業レジャー等の利用や周辺の農産物を活用した利用が考えられる。(図6)
- ・実際の耕作放棄地は、耕地の中の条件が不利な場所から起こりやすく、自治体が保有する所有者ごとの農地台帳などを利用して、1筆ごとに判定する必要がある。

## 地域課題8 環境保全・活用

### 分析例14 地域資源の保全・活用の検討

#### 分析方針

- ・ 中山間地域には、自然環境や文化財、博物館や地場産業などのさまざまな地域資源が豊富にある。
- ・ 一方、中山間地域には災害に対する危険性が多く、地域資源の保全・活用に際しては、災害に対する配慮が求められる。
- ・ このような観点から、国土数値情報の中の地場産業関連施設、文化施設、都道府県指定文化財を地域資源として扱い、災害の危険性については、土砂災害危険箇所を代表として扱う。
- ・ 人口減少の中で地域資源の保全・活用させるだけでなく、災害に対応する活動を行うためには、地域の住民だけではなく外部の人材を活用して、地域を支える担い手を増やす可能性を検討する分析が必要である。
- ・ 外部の人材の参加を求めるために、交通の利便性が重要であり、バス・鉄道データを扱う。
- ・ 例示は、山梨県北杜市である。

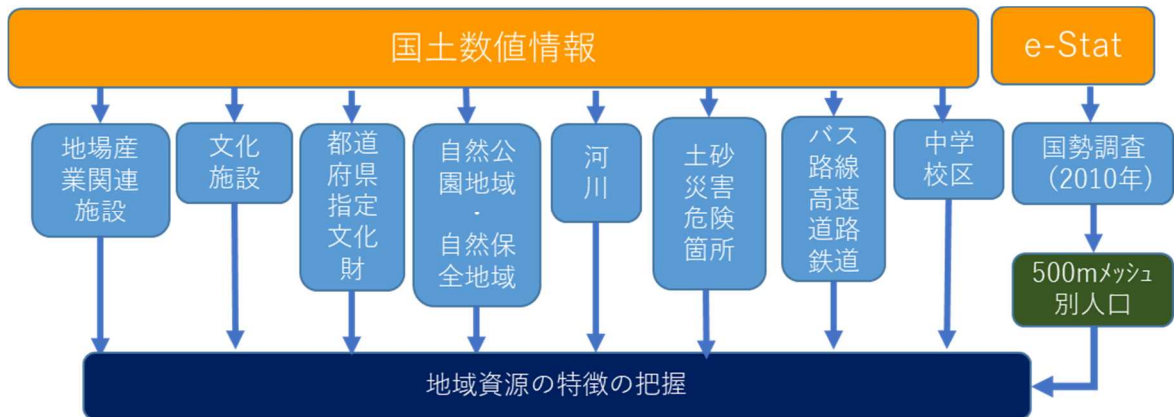


図1 地域資源の保全・活用の検討

まず、地域資源を支えるための2010年人口の分布と、自然公園、土砂災害危険地域を重ね合わせ表示し、地域資源の保全・活用に関わる住民の危険性を読み取ることができる。

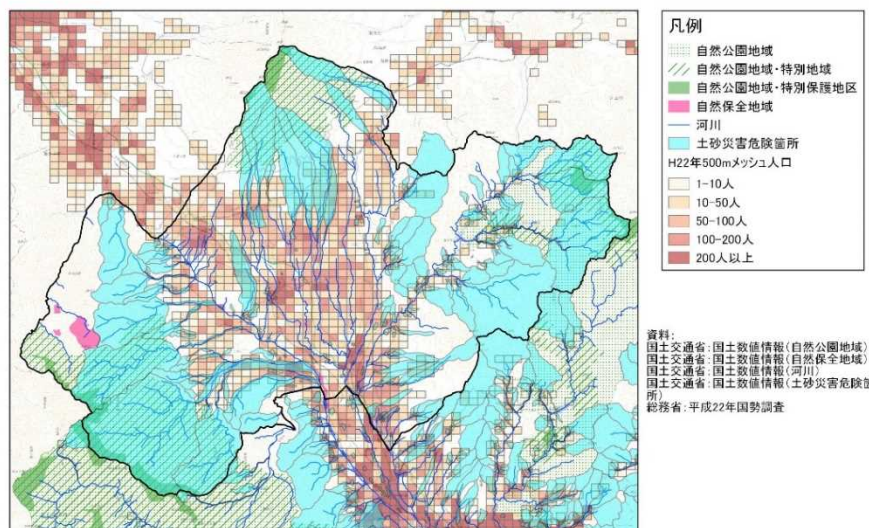


図2 メッシュ別人口と自然公園地域、自然保全地域、土砂災害危険区域



地域資源（地場産業関連施設、文化施設、都道府県指定文化財）と人口分布を重ね合わせ、それぞれの地域資源保全・活用に関わる住民の密度との関係を把握する

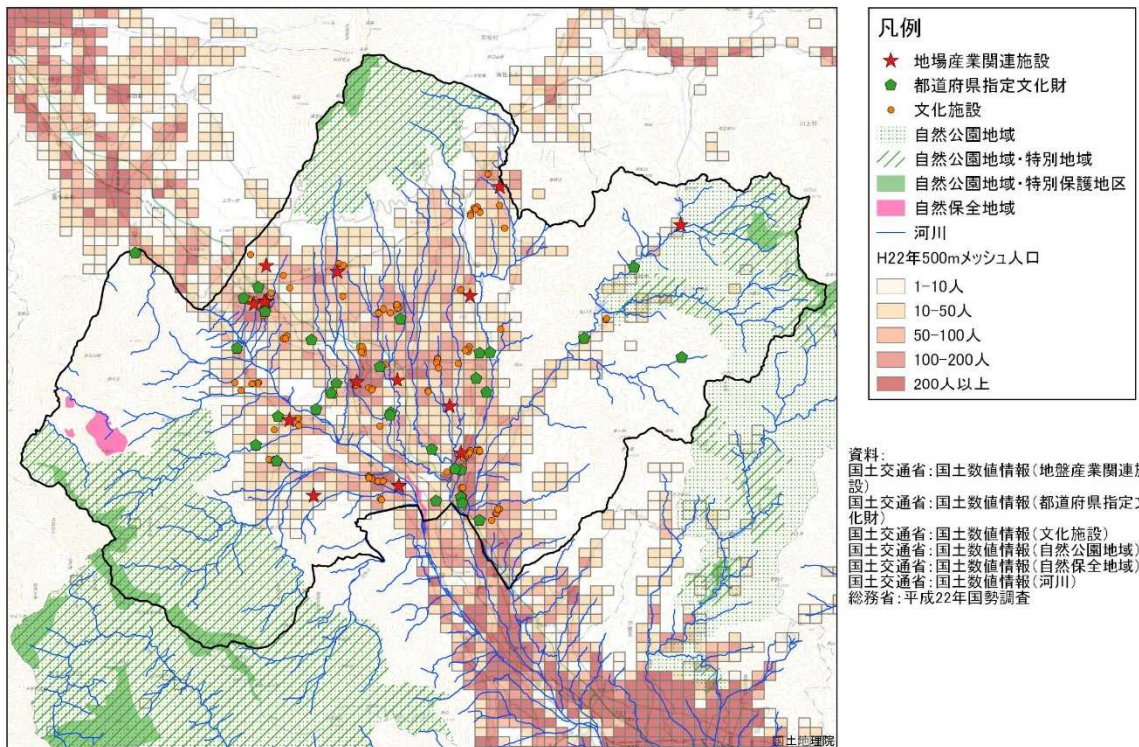


図3 地域資源（地場産業関連施設、文化財、都道府県指定文化財）と人口（2010年）

地域資源（地場産業施設、文化施設、都道府県指定文化財）と土砂災害危険地域を重ね合わせ表示させ、分布の関係を把握する。

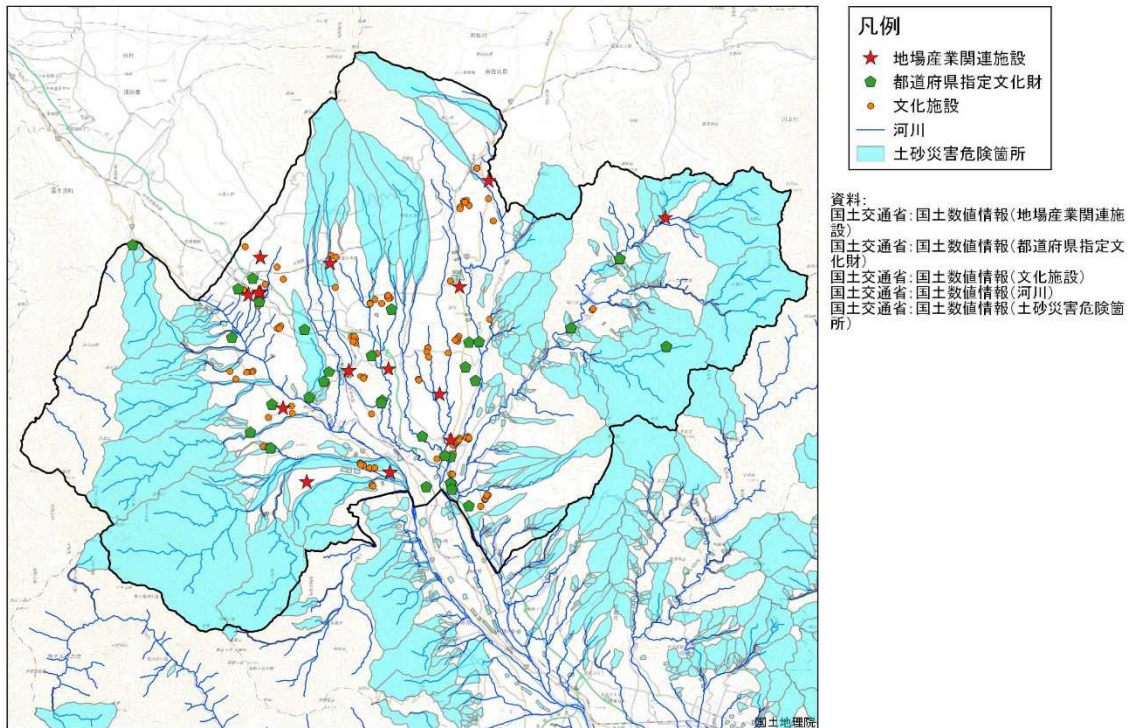


図4 地場産業関連施設、文化施設、都道府県指定文化財と土砂災害危険区域



さらに、地域資源の活用のために来訪者を拡大するためには、交通利便性が重要となる。そのためにバス路線、鉄道を重ね合わせ表示し、地域資源の位置と利便性の関係を把握する。

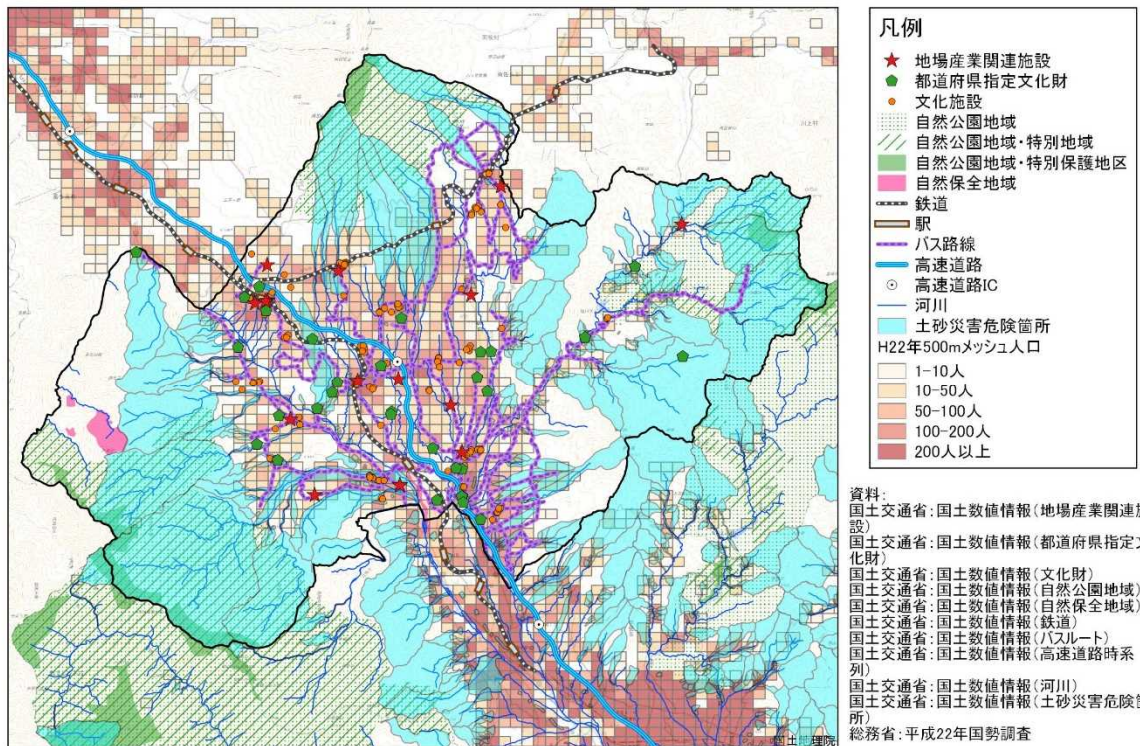


図5 各施設、自然公園等、土砂災害危険区域、鉄道・バスルート

地域資源の保全・活用について中学校区を単位として地域ごとに検討するために、中学校区を重ね合わせ表示する。

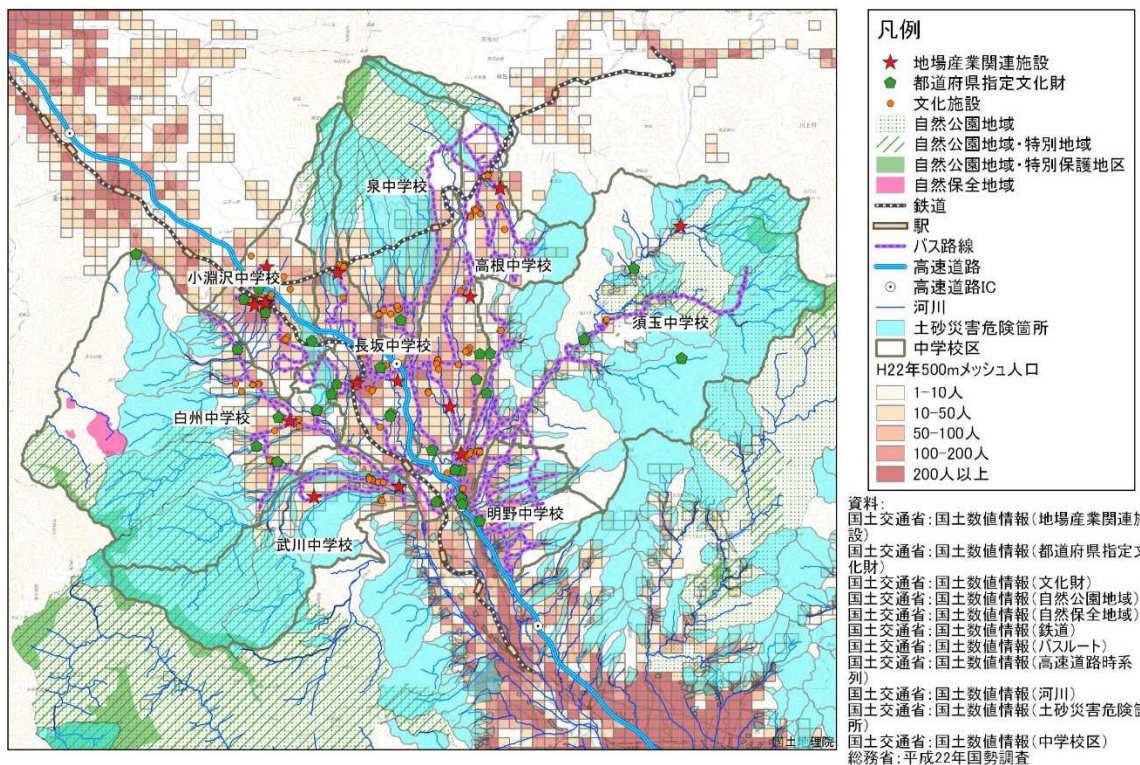


図6 中学校区単位の特徴

## 結果の解釈例

- ・対象地域は、高速道路（中央道）、鉄道（中央線、小海線）が走り、首都圏からのアクセスの良い地域であり、また市内のバス路線の分布を見ると、多くの地域資源はバスによるアクセスが可能であり、自然環境や地域の特産品等を目的とした観光来訪だけでなく、自然環境保護活動、博物館や資料館を活用した文化交流など、地域資源を活かしたさまざまな交流が期待できる。
- ・中学校区単位の特色は、小淵沢中学校区、長坂中学校区、高根中学校区、明野中学校区は利便性も高く観光、都市交流による地域資源の活用の可能性の高い地域である。
- ・一方で、和泉中学校区、白州中学校区、武川中学校区、須玉中学校区は、自然環境の豊かな地域であると同時に、一部の地域では土砂災害危険区域に立地しており、活用に当たっては災害の配慮が必要となる。また、災害については詳細な情報を収集して対策を講じる必要がある。
- ・県指定文化財の活用にあたっては、土砂災害危険区域内に存在するものも多いことから、ガイド、トレイルのようなサービスを考える場合は、警報・注意報発令時の対応をあらかじめ規定しておくなど必要な対応をとる必要がある。
- ・同じ中学校区内においても、人口の密度に合わせた活用方法を考えることが必要となる。周囲に働き手となる人口がある地域では、地域資源を活用した6次産業のような活動も考えられる。
- ・具体的な地域資源の活用検討には、詳細な地域資源情報が必要である。この地図の上に、例えば地元学やお宝発見まち歩きのような活動を通して収集された情報を加えることにより、具体化が検討される可能性がある。



## 「地域資源」について考える

「地域資源」について、分析例 14 では、本解説書の趣旨を踏まえ、GIS 理解のために、便宜的に、「地域資源」を国土数値情報で扱っているいくつかのデータに限って、「地域資源」とした。

しかしながら、本来の「地域資源」とは、限定的なものではなく、地域に存するものすべてが、地域資源の対象となる可能性がある。人間にとって一定の有用性があると認識された時にはじめて「地域資源」と理解されると、考えることが望ましい。

少なくとも、今まで何らかの形で活用されてきたというのが「地域資源」のすべてではなく、社会の変化により、地域への人々の理解や評価が変わると、「地域資源」として認識されていなかったものが、新たな価値をもって有用性のある「地域資源」として取り上げられることとなる。

特定の目的を持って、情報を整理するためには、地域の自然資源のように固定されたものや他方、加工された食品のように地域内で提供されるが、流動する資源も多い。固定資源と流動資源という整理の仕方では、地域資源を整理したものが、次の図である。

なお、国土数値情報として扱われているものは、以下の中では、人文的資源として位置づけられていることとなる。また、地域資源の保全・活用に対しては、以下の表を参考に、多様な「地域資源」を地図表示することにチャレンジしていただきたい。

		例	
<b>固定資源</b> ・地域に固定されているもの ・地域内で活用、消費されるもの	地域条件	気候的条件	… 降水、光、温度、風、潮流 等
		地理的条件	… 地質、地勢、位置、陸水、海水 等
		人間的条件	… 人口の分布と構成 等
	自然資源	原生的自然資源	… 原生林、自然草地、自然護岸 等
		二次的自然資源	… 人工林、里山、農地 等
		野生生物	… 希少種、身近な生物 等
		鉱物資源	… 化石燃料、鉱物素材 等
		エネルギー資源	… 太陽光、風力 等
		水資源	… 地下水、表流水、湖沼、海洋 等
		環境総体	… 風景、環境の同化能力 等
	人文資源	歴史的資源	… 遺跡、歴史的文化財、歴史的建造物、歴史的な事件、郷土出身者 等
		社会経済的資源	… 伝統文化、芸能、民話、祭り 等
		人工施設資源	… 構築物、構造物、家屋、市街地、街路、公園 等
		人的資源	… 労働力、技能、技術、知的資源 等
		情報資源	… 知恵、ノウハウ、電子情報 等
<b>流動資源</b> ・地域内で生産され、地域外でも活用、消費されるもの	特産的資源	… 農・林・水産物、同加工品、工業部品・組立製品 等	
	中間生産物（付随的資源、循環資源）	… 間伐材、家畜糞尿、下草や落葉、産業廃棄物、一般廃棄物 等	

出典：三井情報開発総研編：いちから見直そう地域資源（2003）